

地域で学び、地域と共に歩む松本大学の今。

松本大学学報

sokyu
蒼穹

2018.12 Vol.133



教育学部が梓乃森祭で子ども向け体験ブースを企画(詳しくはP.2・3をご覧ください) 写真はクラフトブースのピタゴラスイッチ

特集1 学生の中から見た
教育学部での学びの魅力 P.02

特集2 松商短期大学部
時代の変化に対応した教育の推進
..... P.04

- 学校法人松商学園 創立120周年を迎えて P.06
- 男子Vリーグの長野トライデンツと連携協定調印 P.07
- 第9回「松本大学地域貢献大賞」決まる P.10
- 公務員・教員採用試験結果速報 P.14 ほか

学生の目から見た 教育学部での学びの魅力

やる気があれば全力でサポートしてくれる環境！
中・高英語教諭一種免許状も目指します

全教科の指導法が必修でしっかり学べる

少人数制の実践型の授業で、課題と目標が明確に！



教育学部学校教育学科 1年
(上田染谷丘高等学校出身)

内堀 栞利さん

教育学部学校教育学科 2年
(飯田風越高等学校出身)

福島 詩穂さん

教育学部学校教育学科 2年
(岩村田高等学校出身)

土屋 詠介さん

学校教育学科・学科長
岸田 幸弘

開学2年目を迎えた教育学部では、学生と教員が一体となって日々「実践力・人間力を備えた教員」を目指し、教壇に立つための学びを深めています。グループワーク等の実践による双方向型授業や学生ボランティア活動・学校インターンシップ等のカリキュラムで早期から教育現場を実感することで、着実に力を蓄えています。今回は3名の学生に、松本大学教育学部での学びの魅力を語っていただきました。

岸田 後期の授業も最終回が近づいてきました。今日は皆さんに、今までの学びについて話を聞きたいと思います。始めに、後期には指導法の授業がありましたが、実際に授業を受けてみていかがでしたか。

内堀 1年次では国語の指導法の授業が始まりました。小学校の頃に当たり前に受けていた授業は、こんな風に作られていたのかと驚いています。

福島 2年次で教科が増えて本格的に指導法を学ぶようになって、指導案作成がだんだんできるようになり自信がついてきました。小学校では全教科を教えなくてはならないので全教科の指導法が必修として学べるのは心強く思います。授業では、わかっていることと教えることは違うということを実感しました。

土屋 僕の場合、始めはどうしても教わる側の視点になってしまいました。生活科の授業では、大学の周辺で見

学してきたことを授業でどのように活用して教えるか、という課題があり、それを繰り返し行っているうちに教える側の視点が生まれてきたと思います。授業の後半は模擬授業をしてその後グループで評価し合いますが、児童役で聞いている学生の反応が良かった時は達成感がありました。実際にやってみることで気付く課題はたくさんありますが、少人数制なので先生や仲間と距離が近いことが、課題を乗り越えやすくしてくれていると感じます。また、いろんな実習型授業を受けるにつれて、来年から始まる教育実習に向けても、少しずつ自信が湧いてきました。

岸田 教育実習におけた段階的な実習型



初等生活科指導法の授業 理論と実践による往還的な学び

授業のことですね。実際に教育現場に行ってみてどうでしたか？

土屋 1年次の学校ボランティア活動では、週に一度小学校へ行き、児童の作品掲示のお手伝いをしたり、授業中についていけない子どもへの机間指導をしました。

2年の夏休みにはインターンシップで1週間、朝から夕方まで先生の仕事をさせていただき、補助の仕事をしました。先生方はいつも忙しいのですが、子どもたち一人ひとりの個性をしっかりと把握されているので、すごいなと思います。実習に行き先生のごさを感じましたし子どもたちも喜んでくれたことで、教師になりたいという気持ちがいっそう強くなりました。



学校ボランティア初日に子どもたちに自己紹介

内堀 私は学校ボランティア活動で6年生のクラスに入って先生の教え方や子どもたちの様子を見せていただいています。1年次から小学校に行けるなんて、大学の授業なのに“現場に近い”と思いました。子どもとふれ合う機会がたくさんカリキュラムに組み込まれているのでやりがいがあります。11月には松本大学で源池小学校2年生の子どもたちと交流する機会があり、1年次生15名で手探りでレク



源池小学校2年生との交流会

レーションの企画を立てて運営しました。後日、子どもたちから楽しかったという手紙をもらって「一生懸命やって良かったな」と思いました。

福島 10月の梓乃森祭では1・2年次生と一緒に子どものためのクラブや音楽、科学実験などのブースをつくりました。ふだん学年間の交流がないところから共に作り上げるまでには色んな苦労がありました。当日は大盛況で互いに協力し合い、子どもたちを楽しませることができました。私は教育学部の実行委員長として取り組み、情報共有の大切さを痛感しました。

岸田 できるだけ多くの現場に触れながら学んでいくことが、卒業して社会人になった時に必ず生きてきます。ところで2020年からは小学校で英語の授業が始まります。本学でも英語教育に力を入れて対応していますが、実際にみなさんは英語にはどんなふうに取り組んでいますか。

福島 私は英語が苦手です。入学当初は不安だったのですが、今では積極的に勉強したい科目になりました。カリキュラムには英語の授業が多くていい先生にも巡り合えたのが良かったと思います。初めて英語が楽しいと思えたのは1年の夏、先生に薦められて参加した福島県での疑似留学体験です。それが頑張るきっかけになってコツコツと課題をこなしていたら、TOEICで目標点数を取ることができました。今は“教える英語”という新たな壁が出てきましたが、どうすれば乗り越えられるかは経験できたので、頑張るのみです。

松本大学教育学部で取得可能な教員免許

- 小学校教諭一種免許状
- 特別支援学校教諭一種免許状（教育領域：知・肢・病）
- 中学校教諭一種免許状（英語）
- 高等学校教諭一種免許状（英語）
- 司書教諭



ネイティブ教員による英語の授業で4技能を育成

土屋 僕は英語は得意な方なのですが、模擬授業をしてみるとまだまだ教壇に立てるレベルではないと感じました。小学生で苦手意識を持たせないように、「英語は楽しい」としてもらえる授業ができるように、今のうちにしっかり学んでおきたいと思います。

内堀 私も小学生から質問を受けた時「それは中学校で習うから」などと言ってしまうのではなく、さらに興味がわくような指導で子どもたちの応援がしたいと思います。より専門的な知識を身に付けておきたいので、中高英語教諭一種免許状の取得にも挑戦中です。e-learningやTOEIC対策講座、留学プログラムなど積極的に学べる機会がたくさんあるし、自分のやる気を全力でサポートしてくれる大学なので、二期生としてこれからも頑張ります。

岸田 みなさんの活動と学びが充実していて何よりです。来年三期生が入学してくるのも楽しみです。それぞれの目標に向かって、これからも頑張ってください。

2019年度の教育学部の入試日程

▶ 本誌最終面へ

※免許状に関しては、教職課程の再課程認定申請中。ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が変更となる可能性があります。

松商短期大学部 時代の変化に対応した教育の推進

松商短期大学部では、地元企業や地域社会が求める人材育成を柱として教育活動を展開してまいりました。その結果として、資格取得や検定合格などの面で実績を重ね、就職内定率も高い水準を維持しています。しかしながら、少子高齢化やAIの進展、外国人旅行者や外国人労働者の増加等を考えますと、新たに生まれる職業で必要となる能力や多文化共生社会で求められる能力等、時代の変化に対応した様々な能力(汎用的能力:コンピテンス)の育成が不可欠です。そこで松商短期大学部では“知識の修得”から“知識の活用”への教育改革を進めており、集中して学修できる環境を整備するために4学期制を導入しました。そして、この4学期制を活用した海外留学プログラム等の開発も進めています。これらの取り組みは文部科学省からも高く評価され、本学は、わが国の教育改革を先導する78大学の1つに選ばれています。(松商短期大学部長 糸井 重夫)

興味・目標にあわせて 学べる多彩な「学びのフィールド」

松商短大は、簿記会計、パソコンスキル、外国語を基礎に、幅広いビジネスシーンに対応した16種類の「学びのフィールド」を用意しています。自分の興味や目標にあわせて自由な科目選択ができ、グローバル化社会に対応した知識・技能とともに、社会で役立つ汎用的能力(コンピテンス)を2年間でしっかり育成しています。

□16のフィールドから 自由に学べるカリキュラム

「経理会計」、「経済・金融」、「情報専門」、「経営・法律」といったビジネスの基本となるフィールド、そして最近の企業が求める国際的なビジネス感覚を養う「国際コミュニケーション」、さらには「医療事務」、「図書館司書」、「福祉・介護」、「ブライダル」、「ファッション」などの幅広いビジネスシーンに対応したフィールドから、学生一人ひと

りが自分の将来を自由に選択できます。多様な「学び」を通して、それぞれの可能性が広がります。

□ゼミナールによって汎用的能力も養成

1年次から始まる「研究活動フィールド」では、自分でテーマを決めて研究に取り組み、2年次最後に卒業研究としてまとめます。この間、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力などが身につけていきます。また、体育大会や大学祭などの学生行事にはゼミナールを単位として参加し、

松商短期大学部 商学科長 山添 昌彦
仲間との共同作業を通した協調性やチーム力を身につけていきます。

□4学期制のメリット

約2カ月を単位とした4学期制の採用によって、授業の短期集中化が実現し、教育効果が向上しています。特に、検定試験に対応した科目では、合格率の上昇という好結果につながっています。また、2カ月から4カ月間の海外研修プログラムや企業研修プログラム(インターンシップ)への参加も可能となっています。

自由に学べる多彩な16フィールド

- | | | |
|-----------------|--------------------|--------------------|
| 1 松商ブランド基礎フィールド | 6 国際コミュニケーションフィールド | 11 ファッションビジネスフィールド |
| 2 経理会計フィールド | 7 研究活動フィールド | 12 芸術と文化フィールド |
| 3 情報専門フィールド | 8 進路支援フィールド | 13 ブライダルフィールド |
| 4 経済・金融フィールド | 9 医療事務フィールド | 14 心とこどもフィールド |
| 5 経営・法律フィールド | 10 図書館司書フィールド | 15 福祉・介護フィールド |
| | | 16 スポーツ・健康フィールド |

学び合える環境活かし 在学中に資格を多数取得

松商短大では、在学中に10個以上の資格を取り卒業する学生も少なくありません。多くの資格取得に成功した二人に話を聞きました。



【写真左】商学科2年 宮崎 はるかさん(文化学園長野高等学校出身)

就職や将来に役立つように、1年生の時から積極的に資格を取得しています。松商短大では資格取得がカリキュラムに組み込まれているほか、資格取得のための勉強会や講座が用意されていたり、4学期制のカリキュラムによって取りたい資格を集中的に勉強できるなど、資格を取るためのサポートが充実しています。資格を取得した時にもらえる奨励金も、頑張る励みになりました。

【写真右】商学科2年 宮尾 明里さん(田川高等学校出身)

宮崎さんとは、勉強を教え合ったりして一緒に頑張ってきました。在学中に16個の資格を取ることができましたが、一番頑張ったのは日商簿記です。高校は普通科だったので、短大に入学してからの簿記の授業では計算機の使い方を教わるところから始まったのですが、先生の授業がとても楽しくてもっと学びたいと思ううちに、3級に合格することができました。簿記の授業は、毎回宮崎さんと最前列の席を確保するほど楽しみにしています。

安定した実績を誇る金融業への就職、 そのほかにも多岐に渡る卒業後の進路

松商短大卒業生の進路の多様性について

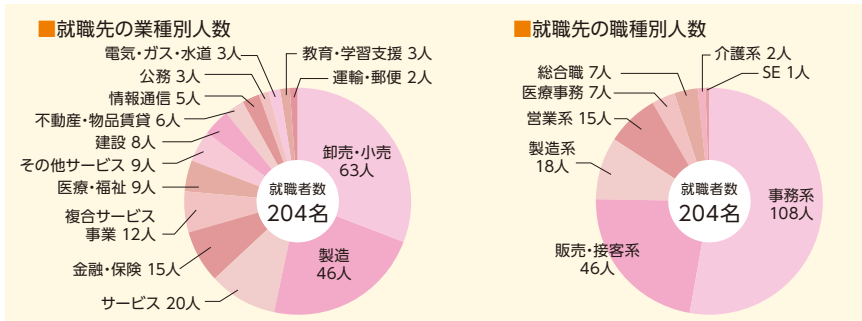
就職委員会主任 木下 貴博

松商短大の就職率は平成29年度において100%を達成し、本年度も現時点で98.6%と非常に高い数値で推移していますが、進路においても、様々な選択が可能となっているのが大きな特徴です。

今年度卒業生の進路に関する具体的な数値はグラフの通りですが、卸・小売業、製造業、金融保険業をはじめとして、その業種は多種多様です。業種以上に重要なのが職種で、医療事務を含め約56%が事務職を選択し、営業職、総合職といった高校卒業生では選択の難

しい職種に就くことが可能です。また、具体的企業名を挙げれば、中部電力(株)、セイコーエプソン(株)、(株)八十二銀行といった地元有力企業にも毎年人材を送り出しています。

卒業後についても、就業状況について定期的にキャリアセンターの専門スタッフがヒアリングを行い、多くの企業から大変高い評価を頂いています。これは、単なる就職支援にとどまらない大学のキャリア教育の成果でもあります。今後も学生支援により一層力を注ぐとともに、卒業生の活躍に期待しています。



(いずれも平成30年3月卒業生実績)

四年制大学への編入によって理論+実践の専門的な学びを実現 松商短大の編入実績

全学教務委員 矢野口 聡

短大生の進路選択の一つとして、四年制大学への編入があります。毎年数名の学生が、さらに専門的な学びを求めて編入をしています。編入ができるのは、短大部で学んだ分野と近い経済、経営、商学などの学部を持つ大学になります。同じ系統の学部であれば、本学で取得した科目の中から読み替えによって単位認定してくれるものが多くなりますので、編入後に履修すべき科目数を抑えることができ、3、4年次の2年間で無理なく学ぶことができます。

編入試験で実施される選考方法は大学によってまちまちですが、書類審査、小論文、面接による選考が多いようです。また、最近是指定校推薦枠を設ける大学が増えてきており、短大での成績が良ければ、こちらで出願する学生もいます。

編入先として最も多いのが本学の総合経営学部です。編入時の読み替え科目数が多いことから、総合経営学科への編入実績が最も多く、中には短大1年生の頃から編入を目指して短大の読み替

え可能科目を中心に履修している学生もいます。また、本学には他学部履修制度がありますので、短大在学中に短大生にも公開されている学部の科目を履修して単位を取っておけば、さらにスムーズな編入が可能となります。

本学総合経営学部への編入試験は、年2回実施されていますが、本学の短大生が受験する場合は、事前にエントリーシートを提出してもらい、必要に応じて事前指導を受けることとなります。エントリーシートは出願書類を準備する際の下書きとなるとともに、学生自身の編入に向けた意志確認のための役割を持っています。短大では資格取得を目指すような演習系科目が多いので、編入を希望している短大の皆さんには、編入により深い理論も学び、理論と実践の両面を磨いて社会に羽ばたくことができます。

過去5年間の編入実績

・富山大学	1人	・大阪産業大学	1人
・松本大学	13人	・國學院大学	1人
・諏訪東京理科大学	1人	・岐阜女子大学	1人
・東京経済大学	2人	・金城学院大学	1人

難しいと言われていた 金融機関に内定!



商学科2年
上野 福太郎さん
(赤穂高等学校出身)

金融機関への就職を目指して高校の商業科を卒業しました。その頃から「男子の金融機関への就職は難しい」と言われていましたが、無事地元の金融機関から内定をもらうことができ、諦めずに松商短大に進学して良かったです。在学中は、金融機関に入社すると必要になる日商簿記2級とFP3級の資格を取得しました。ゼミの先生には資格取得のための勉強を教わったり、面接試験対策のアドバイスをもらったり、ずっと親身になっていただいたことが本当に心強かったです。

松本大学への編入学を経て 教員採用試験を目指しています



総合経営学部4年
大平 菜美加さん
(2017年4月編入
飯田OIDE長姫高等学校)

高校の時から簿記が大好きだったのですが、松商短大に入って友達から問題の解き方を聞かれた時にうまく答えられず、知っていることと伝えられることにはギャップがあることを知りました。そのことをきっかけに教育に興味を持ち、1年次から編入を考え始めました。先生方には出願の手続きから編入試験の対策まで指導していただいたのでスムーズに編入でき、今は商業と情報の教員免許取得を目指し頑張っています。短大・大学を通じて視野が広がり、同じゴールを目指す仲間がいることの楽しさを知りました。

学校法人松商学園 創立120周年を迎えて

理事長あいさつ

理事長 丸山 律夫

本学園の前身である「戊戌学会」は、120年前の明治31年、明治の先覚的教育家・福沢諭吉先生の門に学んだ松本の青年教育者・木澤鶴人先生により創立されました。

木澤先生は「地域、国家の発展は教育にあり」という信念のもと松本に戻り、全身全霊を傾けて教育にあたったとのこと。

その事が松商学園の根幹と言えるわけで、心より創立者木澤鶴人先生に敬意を表する次第であります。

一方、創立から13年後の明治44年片倉製糸の今井五介翁は、私学教育の重要性を認識し経営への援助の手を差し伸べ校名も「松本商業学校」と改称、昭和11年には片倉の全面的援助のもと松本市県町に東洋一といわれた新校舎が建設され、平成23年、国の「登録有形文化財」の指定を受け現在に至っております。

第二次大戦後、財閥解体を機に学園の経営は片倉同族から卒業生に移され、昭和23年には校名も「松商学園高等学校」と改名致しました。

その後、松商学園は昭和53年に短期大学を松本市新村に新築移転、平成14年に松本大学を開学、平成20年学校法人松本松南高等学校と法人合併しさらに平成22年には、新たな教育への挑戦



として6年間完全一貫教育を行う「松本秀峰中等教育学校」を開校致しました。

松商学園は今後も120年の伝統をしっかりと守りつつ、少子化の時代に向けて、更なる改革を進め新たな教育を研究・推進し、地域社会の要請に応えつつ、日本や世界を支えリードする優れた人材の育成に努める決意であります。

ご参席を賜りました関係各位に深く感謝申し上げると共に、更なるご協力ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(当日の式辞から引用)

節目を祝う記念式典に1600人が参加

11月20日、学校法人松商学園の創立120周年を祝う記念式典が、まつもと市民芸術館で開かれました。

松本秀峰中等教育学校オーケストラ部による演奏の中、各学校の代表生徒・学生が校旗を掲げて入場し、松本大学では校友会長の**大島桃子**さんが旗手を務めました。大島さんが運んだ校旗は壇上で大島さんから住吉学長、後援会長の赤津誠内さんへと手渡され、学生・教職員・保護者の絆を表しました。

理事長、各学校長、学長の挨拶の後には、日本文学研究者で東京大学名誉教授のロバート・キャンベル氏の記念講演会が開かれ、日常の苦楽を身近な言葉で詠んだ江戸



校友会長が運んだ校旗は学長そして後援会長へと時代末期の歌人を紹介した上で、「外国人との相互理解を深めるためには自らの内面と向きあい、分かりやすく伝えることが重要」と話されました。

松商学園高等学校、松本大学、松本大学松商短期大学部、松本秀峰中等教育学校の在校生や卒業生ら約1600人が出席し歴史と伝統を振り返り、節目となったひと時でした。

120周年の重みを感じて 気持ち新たに

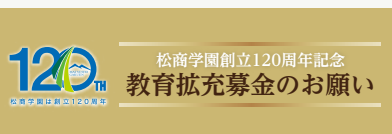
今回、松商学園創立120周年という記念すべき節目の式典で、松本大学代表として旗手を務めることができ、とても貴重な体験が出来たことをうれしく思っています。校旗は持つと

ずしりとし、120周年の重みを感じました。式典では、松商学園の歴史なども映像で知ることができ、改めて素晴らしい伝統のある学園であるということがわかりました。松本大学の学生として、今後も勉学・部活動や課外活動を深めていきたいと思



松本大学 校友会長
大島 桃子さん

総合経営学部
観光ホスピタリティ学科3年



学校法人松商学園の創始は、遠く明治31年(1898年)、福沢諭吉の薫陶を受けた青年教育者木澤鶴人がこの信州松本の地に戊戌学

会を開き商業教育を始められた時に遡ります。

現在、松商学園高等学校、松本大学松商短期大学部、松本大学、松本秀峰中等教育学校と教育事業の拡大が進み、創始以来、学園全体で約5万人を超える有意な人材を世に送り出し、平成30年度には創立120周年を迎えています。

この歴史と伝統のうえに、未来に向けて新

たな発展の足跡を残していくために、学園のキャンパス環境の整備を120周年記念事業として位置づけ、学生・生徒にとってよりよい教育環境を整えるために教育施設拡充募金を進めさせていただいております。

皆様方の温かいご理解ご支援を賜りたくお願い申し上げます。

募金の方法については、松本大学公式ホームページまたは本誌最終面をご覧ください。

健康づくりと宿泊をパッケージにしたヘルスツーリズムを企画

—来年度からの全面展開に向けて準備進む— 松本大学研究ブランディング事業推進委員会委員長・副学長 等々力 賢治

来年度、本学の研究ブランディング事業は文部科学省による選定から3年目を迎え、申請書に記載した全面展開期に入ります。そのため現在は、16社280名を超える企業従業員の皆さんを対象に「タグフィットネス」を中心とする健康づくりに取り組みつつ、新たな参加企業の募集・開拓を行っています。さらにこれに加え、事業の柱の一つであるヘルスツーリズムの具体化に向けて準備を進めているところです。

〈見えてきた課題〉

この夏から取り組んできた健康づくりについては、体力測定などは順調に進んでいる反面、参加者各々の意識や意欲の違い、そして運動に消極的な方の存在も浮かび上がってきています。今後、そうした方にどのようにして積極的参加を促していくのか、知恵と時間、そして人手を使っていく必要がありそうです。

こうした課題を抱えつつ、並行して、来年度から参加いただく企業探しを進めています。今の

ところ、今年度の継続分も含め、県内企業を中心に21社430名程の参加が見込まれますが、必要経費で「二の足を踏む」企業もあって確定には至っていません。とはいえ、今年度の原村(村民93名)に加え、新たに複数の自治体からの体力測定依頼もあり、順調に実施計画がつけられています。

〈松本大学らしい独自性を目指して〉

また、ヘルスツーリズムに関しては、健康づくりと宿泊のパッケージ化を念頭に、ヘルスツーリス

ム認証に関わるシンポジウムを企業・自治体関係者対象に、また、ツアーガイド養成のための「ヘルスツーリズムおもてなしガイド講座」(仮称)を宿泊施設従業員などを対象に、それぞれ企画し実施することを構想しています。詳細はさらに詰めねばなりませんが、いずれにしても、本学らしい独自性のあるものにするべく取り組むものです。

以上、現状をかいつまんでお知らせしましたが、本誌次号で、3年目についてさらに具体的に示すよう準備を進めます。

男子Vリーグの長野トライデンツと連携協定調印

スポーツ健康学科 准教授 山本 薫

12月4日、バレーボール男子VリーグのVC長野トライデンツ(本拠地・上伊那郡南箕輪村)と本学の間で、「事業連携・推進に関する協定」が調印されました。協定調印に至ったきっかけは、「チーム」「パートナー」「地域」をキーワードに夢を叶えたいという同チームの熱い思いと、「地域連携・貢献」を設立理念とする本学の方向性が一致し、

地域を盛り上げたいという思いが共有できたことにあります。将来的には、スポーツ教室の企画運営や講演会の開催、地域活性化及び、スポーツを通じた健康体力づくりに関する調査研究等を検討しています。今回の協定調印によって、スポーツに興味・関心



のある皆さんに、いっそう魅力ある機会や情報を提供できることが期待されます。

活発なFD・SD研修会とその背景

FD・SD委員会委員長 住吉 廣行

「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」(文科省・中教審答申)、教育再生実行会議(閣議決定)、人生100年時代構想会議等が、少子高齢化を見越して大学の将来像を描いています。それに応え制度も整えなければ、補助金カット、各種申請が受け付けられない等ペナルティも伴います。教育改革を進めようと、矢継ぎ早の要請です。学長同士の会話でも「応え続けることが良い方向へ舵を切ることになるのか」「大学の多様性を損なわないか」等、懷疑の声も出てきています。

しかし本学では社会の変化に対応した改革推進の他に、補助金減は経営に響くこともあり、FD・SD部会を委員会に格上げし、現状認識を教職員で一致させるべく、FDや

SD研修会を頻繁に開催しています。各回SDでは80~90名ほどの教職員が、FDでは60名前後の教員が参加しています。

「現在大学に求められる内容全般」に関しては、下表の③⑥でその全体像と実現に向け必要な対応を明らかにしました。「教育の質保証」については①④⑤⑧のFDで、学生

の成長を学生自身が自覚できる工夫やそれを保証する制度のあり方について学びました。「グローバル化対応」は②で、「高大接続改



革」については⑦と、主要テーマを網羅し開催しました。回数多さは本学の機敏性を示す証左でもありますが、これは日頃の各委員会活動の成果に基づいていることは言うまでもありません。

〈表〉今年度実施しているFD・SD研修会

	実施日		研修テーマ	講師
①	8/27	FD	松本大学の教育が目指すもの—専門員・TAの教育への関わり—	松本大学 学長・副学長・事務局長
②	9/4	SD	我が国における高等教育のグローバル化	明治大学教授 大六野耕作氏
③	9/11	SD	私立大学等改革支援事業について	松本大学 事務局長
④	9/12	FD	3ポリシーとアセスメントポリシー	松本大学 学長・副学長・学部長・事務局長
⑤	9/19	FD	同 上	
⑥	10/31	SD	大学機関別認証評価 第3フェーズの受審に向けて	松本大学教授 上野隆幸
⑦	12/4	SD	高校から見た松本大学 —入試改革に向けて—	松本大学 教員・専門員等
⑧	12/5	FD	シラバスの作成方法について	松本大学 教務委員長・課長

『夜明けの図書館』で語る レファレンス・サービス論」開催

松本大学図書館長
伊東 直登

10月6日、今年度2回目の図書館公開講座を開催しました。講師には、横浜市立図書館において、レファレンス・サービスやヤングアダルトサービスの専門家として長くかかわってこられた吉田倫子(みちこ)さんにお越しいただきました。

レファレンス・サービスとは、図書館の資料やネットワークを使ってさまざまな調査や相談に応じる、図書館の大切な基幹的サービスの一つ。図書館員の力が試される場である一方、一般への利用が思うように普及しないことが図書館の悩みであり、それだけに関心の高いサービスです。そんな

こともあってか、参加者は、学生と社会人を合わせて62名。遠くは千葉県や富山県からの参加もありました。

吉田さんは、図書館を描いたマンガ『夜明けの図書館』(現在5巻まで刊行中)の作中において、レファレンス・サービスや各種図書館サービスを軸に繰り広げられるシナリオづくりに図書館員として協力しています。ご講

演は、その裏話や苦労話を中心にしながら、レファレンスのコツや心構えなどを丁寧に盛り込み、楽しく聞きながら学ぶことのできる内容でした。講座終了後に急きょ設定した、吉田さんを囲んでのトーク会にも多くの皆さんに参加いただき、熱心に意見が交わされた有意義な時間となりました。



松本大学図書館の取り組み

松本大学図書館は、学術書から趣味の分野まで、約11万冊の蔵書を誇ります。学校関係者はもちろん学外からの利用もでき、視聴覚コーナーや個人・グループ学習用の専用スペースを設置して地域の図書館として大きな役割を担います。

展示企画

三カ月に一度、展示するテーマをスタッフで相談し、新たな本との出逢いを提供できるよう、企画しています。

過去の企画展示(一例)

- ・2017.9
「赤い本だけ、集めました。」
- ・2017.10
「松大生のための読書案内」
- ・2018.3
「大学生の日常術(新入生におすすめの本)」
- ・2018.6
「就活するキミへ」
- ・2018.9
「防災の本」
「司書教諭科目受講生のおススメ本」



利用へのアドバイス

図書館の使い方をはじめ、資料の検索の仕方(蔵書・電子情報・データベース)や論文の書き方講座など、各種アドバイスをを行います。



読書月間

毎年11月を読書月間とし、様々な企画に取り組んできました。

今年のテーマは

「秋は図書館で待ち合わせ!」と題し、さまざまな展示やイベントを行いました。

読書月間企画展示やイベント(今年度)

- 学生・教職員による本の紹介
- 秋色の本を集め本の紅葉で図書館を彩る「図書館で紅葉狩り」
- 観光・グルメ・絶景スポットを紹介「秋だ!ぶらり街歩き!」
- レポート論文の書き方講座
- 図書館全体を使った謎解きイベント「赤ずきんの失くし物を探せ!」
- メニューを見てカウンターで注文するとそのメニューらしい本を紹介「図書館食堂」
- 図書館で役目を終えた本をプレゼント「リサイクル図書市」



「図書館食堂」の展示

松本ユース平和ネットワークの活動

観光ホスピタリティ学科 教授
尻無浜 博幸

若者による平和の学びとその情報の発信を続けている松本ユース平和ネットワークでは、今年の夏も様々な活動を行いました。まず、8月27日～29日には、今年で3回目となる被爆地長崎での研修を行い、被爆当事者が年々高齢化しているという課題の中で体験談を継承していく取り組みや、長崎大学の学生の活動実績、市民ボランティアのあり方などを学びました。また、9月24日の松本市平和都市宣言の日には、活動の報告会と併せて、人道的観点で国連の活動をしている紺野美沙子氏の話や聞き取り機会があり、その中で、松本ユース平和ネットワークの

戦争から始まった視点が、国際紛争、難民救済へと広がりがつつあることを実感しました。

この活動のもう一つの使命は、平和に向けた情報の発信です。活動の大半は市内の小・中学校に出向いて行う出前講座で、今年も多く学校から要望がありました。小学生向け、中学生向けに内容を細かく分けて準備しています。また、各講座の後半には必ずディスカッションの時間を設けて話し合いの時間を作ります。若者が伝えるという利点をフル活用できるよう、十分な準備を経て毎回出向いていますが、学生にとっては緊張の連続です。活動を通じて学



生の姿を見て思うことは、息の長い活動になっていくことが最も大切ではないかということです。

歩きたくなる仕掛けづくりを発表 「第2回まつもと市民会議」

スポーツ健康学科 准教授 山本 薫

11月17日、勤労者福祉センターにて、松本の中心市街地を活性化するために市民が意見交換する「第2回まつもと市民会議」のタウンミーティングが開催されました。今回のテーマは「みんなで考えよう！歩いて行ける街の魅力づくり ディスカッションしよう松本の賑わいづくり」で、200名を超える参加者が会場に訪れた中、歩くことで喜びを生み出す歩きたくなる仕掛けづくりについて発

表しました。市民も観光客も立ち寄りたくなる場所にするために街なかを流れる女鳥羽川沿いに行く仕掛けとして、「衝撃を抑えるウレタンチップを敷き詰めた歩道」「歩行距離が分かるように植えられたローズマリーやラベンダー」「松本市や松本城、女鳥羽川の歴史案内板に、詳細が映し出されるQRコードを貼る」「全国的なウォーキングイベント開催」など、事前にまとめたアイデアを



提案しました。他にも街なかでの快適な過ごし方や音楽を楽しめる街づくりなどの発表があり、まとめた上で今後は松本市へ提言します。今回の市民会議をきっかけに、松本市がより賑やかな街になることを期待します。

研究室紹介

健康科学研究科・健康栄養学科 教授
弘田 量二

予防医学のできる管理栄養士を!

こんにちは!弘田ゼミでは人間が幸せに暮らしていく方法(公衆衛生学)についての研究を行っています。近年アレルギー患者が増えています、「住環境がきれいになりすぎて免疫系が十分鍛えられておらず、アレルギー反応を起こしやすい」という有名な仮説があります(衛生仮説)。私どもの最新の研究では、薬用石けんやマウスウオッシュなどに配合されている殺菌剤(トリクロサン)を幼少期から用いるとモデルマウスのアレルギー反応を強くしてしまうことを証明する一方、食品に含まれる機能性成分-ユズ果皮のリモネンや碯石茶の没食子酸-がモデルマウスのアレルギー反応を抑制し、アレルギー予防に効果があることも明らかにしています。

ところで、数年前に神奈川県で実施したヘルスツーリズム研究では、ツアー参加者に提供された和食薬膳料理が腸内細菌叢を有意に変化させることを明らかにしました。選び抜かれた地元素材の味

が十分に引き出された上に、季節感が楽しめるカラダに良い薬膳料理は、管理栄養士を目指すゼミ生には必ず役立つスキルと考え、夏休みに薬膳料理専門家山口



竜三先生を招いて調理実習を行い、下ごしらえから丁寧にじっくり時間をかけて調理しました。現在は、薬膳料理の栄養成分と腸内細菌叢変化との関連を明らかにしたいとゼミ生達は頑張っています。

弘田ゼミは本年4月からスタートしたばかりの若い研究室で、運営は手探り状態ですが、ゼミ生たちと楽しくまじめに活動していきたいと思えます。興味のある方の来訪をお待ちしています。

東京農業大学大学院農学研究科博士前期課程修了。臨床検査会社・高知大学を経て現職、博士(医学)。環境曝露によるアレルギーの予防研究やヘルスツーリズムに関わる。【研究課題】薬膳料理と腸内環境、抗菌・防腐剤のアレルギー増強機構【専門分野】予防医学・地域支援

第9回「松本大学地域貢献大賞」決まる

地域に根ざし、地域で活躍できる人材の育成を目指す本学では、学生のさまざまな地域活動を多くの方に知っていただくとともに、その活動を支援・推進する目的で「地域貢献大賞」を設けています。今年も大学祭「梓乃森祭」でプレゼンテーションが行われ、大賞をはじめ各賞が決まりました。

地域貢献大賞（学長特別賞）

時短・簡単・節約レシピとIBDレシピの贈呈

藤岡研究室

大学と病院の協働により開催する糖尿病教室は9年、炎症性腸疾患（IBD）患者交流会は7年継続しており、どちらも全国初の試みです。昨年は患者様の御要望にお応えしたオリジナルレシピを贈呈し、そのことが評価されて受賞の運びとなりました。

糖尿病患者様のための時短・簡単・節約レシピは、1日1,600kcalの1週間の献立と主食・主菜・副菜・汁物に分けた59種類のレシピに栄養価、材料費、調理時間を記載しました。1年では完成に至らず無念の涙を流した7期生の志を、8、9期生が引き継いだ3年越しの大事業でした。IBDレシピは、4～7期生が考案した30種類のレシピを8、9期生が冊子化しました。その一部は(株)EAファーマの患者専用サイトに掲載され、6年越しの大願成就でした。巻末には研究室で作成した病態別の災害用備蓄チェック



歴代58名の学生を代表して4年生が受賞

リストも添付しています。地域貢献大賞には、9年連続で出場した唯一の研究室となりました。毎年エントリーした理由は、自身が創設時の担当であったことと、当時作成した抄録集の表紙が今尚引き継がれており、賞に愛着があったからです。第1回学長

賞は故菴谷利夫学長より、第2、4、9回は住吉廣行学長より授与されまして、有終の美を飾ることができました。この名誉と感謝を歴代58名の学生に捧げまして、節目といたします。

（健康栄養学科 専任講師 藤岡 由美子）

エプソンユニオン賞

「若者による平和を創る街=松本」の活動

松本ユース平和ネットワーク（尻無浜ゼミナール）

梓乃森祭に併せて開催された地域貢献大賞に、尻無浜ゼミの取り組みとして「松本ユース平和



目を隠しBB弾の音を聞くことで、核の数の多さを感じるネットワーク」の活動を紹介させていただきました。ゼミ単位としての活動は今年がひと区切りになるため、4年生を中心に奮起して準備した結果、見事に賞をいただくことができました。地域貢献として小・中学生向けに平和についての出前講座を実施しておりますが、その実際の講座の一部として、BB弾を使って世界の核保有数を音で感じるアプローチを紹介し、内容について吟味してもらった時間を作りました。今回の受賞は、核兵器一つ一つがもたらす脅威を広く伝えようとする若者（学生）の工夫が、評価されたのではないかと思います。

（観光ホスピタリティ学科 教授 尻無浜 博幸）

ものぐさ太郎賞

地域と大学を繋ぐ「Volere!!」

「ゆめ」編集（地域づくり考房「ゆめ」）

松大生がつくる情報誌「Volere!!」は年1回発行し、今年で7号目となりました。7号目は教員へのインタビュー、新村のイベントや松本のオススメスポット、インスタ映えるグルメの紹介、生協案内、クーポン券付き協賛店の紹介と盛りだ



昼休みの打ち合わせ風景

くさんです。学内で配布するほか、新村の14町会には回覧板で回覧し、協賛店舗には店置きしていただいています。5月に開催された「あたらしの郷協議会」総会後には、公民館長から「新村の運動会やウォークラリーに参加して体験を共有した大学生が、新村の魅力を先輩から後輩に引き継ぐ活動に取り組んでおり、こうした若者たちの姿が新村に活気をもたらしています」と紹介いただきました。

地域の情報を大学へ、大学の情報を地域へと発信する事を通じて、「地域と暮らせる情報冊子」としての活用を目指しています。各学部所属する9名のスタッフはインタビューや記事の執筆、レイアウト作業、教員・地域・協賛店舗等とのコミュニケーションを通じて、着実に成長を遂げています。

（地域づくり考房「ゆめ」 臼井 健司）

同窓会長賞／後援会長賞

アレルギー患者様のQOL向上を目指して

沖嶋ゼミナール4年

沖嶋ゼミナールでは、数年間にわたって食物アレルギー患者様のQOLの向上を目指して研究を行ってきました。主なテーマは「食物アレルギー患者の災害時食支援」と「リンゴOAS患者でも食べられるリン



沖嶋ゼミ初のW受賞

ゴ品種の探索」です。これまでの先輩たちの研究テーマを引き継いだ現4年生が成果を出し、どちらにおいても一定の成果がまとまったため、地域貢献大賞に応募しました。その結果、災害時食支援で同窓会長賞、リンゴ品種の探索で後援会長賞をいただくことができました。

今後も、引き続き梓乃森祭で研究展示を行うことなどを通して、地域の皆様に私たちの研究で得られた知見を幅広くお知らせしていくとともに、後輩たちにもより良い研究成果をあげてもらい、食物アレルギー患者様の生活がより豊かなものになっていく支援をしていきたいと思ひます。
(健康栄養学科 専任講師 沖嶋 直子)

学生委員長賞

県内高校生女子バドミントン部への栄養サポート

長谷川ゼミナール

県内の高校バドミントン部女子選手において「インターハイに向けた身体作り」という目標を立て、約1年間の栄養サポートを実施しました。競技レベルの高いチームですが、これまで栄養サポート経



栄養指導の様子

験はなく、一般の高校生と変わらない食意識・知識でした。日々の練習量は多く、十分な食事が取れない・取れていても高校生女子にありがちな菓子類に頼るなどの課題がありました。学生と選手で個別の課題に向き合い、個々に合わせた資料を用いて、食意識・知識の向上に努めました。この活動は、単に対象とした女子選手のみに限らず、一緒に練習する男子選手や中学生選手、保護者にも共有され、チーム全体の食意識が向上したと評価を頂きました。

(健康栄養学科 専任講師 長谷川 尋之)

〈地域貢献大賞審査員〉

- セイコーエプソン労働組合 書記長 吉澤 弦様
- セイコーエプソン労働組合 副書記長 松山 茂様

- 新村公民館長 関 成任様
- 松本大学同窓会長 小島 恵子様
- 松本大学後援会長 赤津 誠内様

- 松本大学学長 住吉 廣行
- 松本大学全学学生委員長 濱田 敦志
- 松本大学学生会前学祭局長 鎌田 瑞希

学びの風景 地域とともに

地域をフィールドにした実践的な学びをご紹介します。

松島中学校生徒と教育学部の学生が交流 ～パラスポーツを通じたインクルージョン教育の推進～

教育学部 教授 小林 敏枝



松島中学校3年生の総合的な学習の時間において、今年の6月から9月にかけて全7回のパラスポーツ体験授業を行い、教育学部の学生が授業のサポートにあたりました。内容はシッティングバレーボール、車いすバスケットボール、ボッチャ、ゴールボールの4種目で、「パラスポーツの体験を通じてノーマライゼーション社会への理解を深める」ことを目的として実施しました。教育学部の学生はこの体験授業のために、事前に長野県障がい者スポーツ協会地域コー

ディネーターの指導者からパラスポーツについての講習を受講した上で、中学生の授業のサポートにあたりました。

車いすバスケットボールの授業では、中学生は車いす操作やドリブル、シュートなどに一生懸命取り組んでいました。授業の最後には試合を行い、車いすバスケットボールの魅力に触れることができ「楽しかった」「車いすバスケの選手はすごい」などの感想も聞かれました。今回はパラリンピックの方のご指導もあり、中学生は障害の有

無にかかわらずスポーツを楽しむ気持ちはみんな同じであると感じることができたようです。教員を目指す学生にとっても中学生に指導する機会は大変有意義でしたし、インクルーシブ教育への理解を深められたことは、各々の今後の学びにつながる貴重な体験となりました。

今後も地域との連携を深め、ノーマライゼーション社会への発信をしていきたいと思ひています。



話と和と輪、想像と創造の空間 地域づくり考房『ゆめ』



地域づくり考房『ゆめ』は、学生が大学での学びを活かして地域と連携し、地域の課題解決に向けて主体的に取り組む活動を支援しています。

梓乃森祭で多彩な取り組みを発表

10月13日、14日に開催した「第52回梓乃森祭」には、大勢の方の来場がありました。地域づくり考房『ゆめ』にとっても秋の一大イベントです。

梓乃森祭に向けた『ゆめ』の主な取り組みは、プロジェクトの活動発表展示でした。その中でも新村地区との連携活動についてはコーナーを設けて大きく取り上げ、新村地区の大勢の皆さんに足を運んでいただきました。大学近くにある「みすず屋」での学生と地元の皆さんとの交流風景やメッセージ等の展示を見て改めて「みすず屋」での取り組みを知っていただいたなど、展示の効果がありません。その他にも、すすき川花火大会の写真・絵画コンテストの入選作品には多くの注目が集まったり、松本市環境政策課や



「みすず屋」の展示は多くの人の興味を引きました

青少年ホームの方による「学ぼう！減らそう！食品ロス」や事業紹介など取り組みを詳しく説明して頂き家族連れが熱心に耳を傾けるなど、それぞれに賑わいを見せていました。プラレールで遊びながら公共交通マナーを学べる、毎年人気の上高地線応援隊では、子ども達が時間を忘れて楽しんでいました。波田不要食器回収委員会の「不用食器の無料配布」では、不用食器を再生する取り組みのパネル展示も行いました。また、毎年参加していただいている「マーブルの会」の皆さんのおやきとちらし寿司は今年も大好評でした。第2コムハウスからは、施設で作っているクッキーなどの販売がありました。

学生プロジェクトの販売での今年の目玉は、「◎いただきます!!」のメンバーが新村地区の生産者グループと協力し開発したドーナツです。「くれき野やさいクラブ」が栽培する古代米の調理方法や活用方法の相談を受けたことをきっかけに、今年度



大好評だった古代米ドーナツの販売

試行錯誤し開発していた古代米のドーナツが、ついに完成し、梓乃森祭で販売することができました。気になる評判は、「もちりした食感がおいしい」「甘さ控えめなのうれしい」と、子どもから大人まで大好評で、あっという間に完売になりました。学生たちにとっては、自分たちが持っている知識やスキルを活かしたプロジェクトの成功が何より励みになったことと思います。

これからも地域づくり考房『ゆめ』では、それぞれのプロジェクトのメンバーが大学で学んでいる専門分野の知識や特技を、「力」を必要としている地域のために活かせる活動に繋がるよう支援していきたいと考えています。

(地域づくり考房『ゆめ』 山岸 勝子)

4校合同で大学間地域連携活動研修会(夏合宿)を実施

『ゆめ』では2014年から夏季休業期間を利用し、宿泊研修を兼ねて日頃学生たちが取り組んでいる活動の中間報告会を行っています。昨年度は本学の他、共愛学園前橋国際大学、田園調布学園大学にもご参加いただき、3校合同で実施しました。

今年度は8月31日～9月1日に「大学間地域連携活動研修会」と題し、昨年度の3校に長野大学も加えた計4校96名の参加者で開催されました。企画内容については、昨年度参加した3校の学生代表13名が中心となって話し合いを進めました。前回は初の複数

校での実施ということもあり交流や親睦を深めることに重点を置きましたが、参加者アンケートではお互いの活動についてもっと時間を割きたかったという意見も見られました。今回はその反省を活かし、活動発表方法の工夫や、意見交換の時間確保などを意識して組み立てていました。そのかいあって今年度のアンケートでは2日間を通して参加した学生たちの満足度は高く、特に活動の悩みや課題をテーマにして取り組んだグループワークでは、活発な意見交換



グループワークの様子

が行われていました。

また、今回をきっかけに日常的に他校生とやり取りをしながら活動を進めていきたいという意見も出ており、来年度の活動へ繋げていければと思います。

(地域づくり考房『ゆめ』 上川 由香里)

地域の健康づくりを支援する 地域健康支援ステーション



地域健康支援ステーションでは、地域からの依頼を受けて健康づくりの支援やメニュー提案など実践的な活動を行っています。最近の活動をご紹介します。

管理栄養士
スタッフ
飯澤 裕美



健康運動指導士
スタッフ
土井 麻弓



松本山雅FC「スタめし」の新商品を販売しました



10月6日と11月4日、松本山雅FCのホーム戦で、学生が提案し商品化した「スタめし」がサンプルアルウィンで販売されました。このプロジェクトの9期目となる今年は健康栄養学科の9人が7商品をエントリーし、商品化に至った3品「松っ上げパン」「がっつりガンズくんバーガー」「こころを1つにOneSoulソフト」が販売されました。

学生たちは、商品化のための講習会や現地視察での販売のリサーチを経てアイデアを提案し、採択されたアイデアについて出展業者と試作や検討を重ねて商品化しました。業者さんからのアドバイスに基づいて販売価格や販売個数も学生が設定し、販売促進のための商品オリジナルパッケージやPOPの作成なども行いました。

当日は、「TVで見て買いに来たよ」「毎年の学生さんのスタメシ



お子様にも好評でした

の企画が楽しみ」というサポーターもあり、おかげさまで全ての商品が完売となりました。

南相木村の保健指導員が来学し研修会を行いました



栄養バランスのチェック

南相木村保健指導員会からの依頼を受け、12月6日に大学にて研修会を開催いたしました。研修会では、午前中は食育SATシステムによる食事診断を行いました。並べられた料理モデルの中から前日に自分が食べた料理の組合せを選んでトレーに載せると、瞬時に栄養バランスが表示されます。「脂質が多すぎる」「ビタミンAが足りない」などご自身の食事の判定を見ながら、バランスの良い料理の組合せについて考えていただきました。

午後は体育館で体力測定とロコモティブシンドローム予防の運動実技指導を行いました。参加者は体組成の測定や体力測定を行い、自分の結果を日本人の同年代の平均値と比べながら確認していました。測定終了後には、結果から推測される日常生活への影響と、その体力の維持改善方法について説明をし、運動の重要性について理解を深めていただきました。参加者からは「体力測定は、日常的に運動をしなくてはと思ういい機会になった」「思っているより自分の身体が動かなくて驚いた」といった感想をいただきました。

ぼくらの学校フェスタで健康体操を行いました



信州メディビトネットからの依頼を受け、10月6日に開催された「松本市民活動ぼくらの学校フェスタ」のイベントにおいて「楽楽エクササイズ」の指導を土井健康運動指導士が行いました。信州メディビトネットが企画するブースでは運動・栄養・睡眠をテーマに各種ミニ講座や体験コーナーが実施され、その中の健康づくりの運動の講座を担当しました。運動の効用などを話したあと「楽楽エクササイズ」と名づけたポップな音楽に乗って楽しく踊る有酸素運動の体操を行いました。最初はブースにいた15名ほどで体操していましたが、音楽の軽快なリズムにつられて他のブースの参加者やスタッフの方々も一緒になって身体を動かしていました。参加者か



運動の効用についての講話

らは「単純な動きだけで案外疲れる」「身体が温くなった」などの声が聞かれ、他のブースのスタッフには「楽しい企画で会場の雰囲気も明るくなってよかった」と喜んでいただくことができました。

松本まちなかウォーキングを実施しました



松本保健福祉事務所より依頼を受け、長野県の「信州ACEプロジェクト」の活動の一貫で大学生を対象とした松本まちなかウォーキングを9月26日に実施しました。松本大学の健康運動指導士を目指している学生と信州大学の学生と一緒に、健康づくりに効果的なウォーキング方法を意識しながら松本市内の約5kmのコースを歩きました。ウォーキングコースは、城下町の史跡を巡ったり井戸水で

休憩するなど、風情も楽しめるようなコースを設定しました。早歩きをする場面では「先生には負けたくない!」、学生と先生がお互いに一歩も譲らず競い合う姿が見られるなど楽しみながらウォーキングを行っていました。信州大学の学生は「歩き方を変えるだけでこんなに汗がかけるんだ」「大学へ歩いて通学する時に今日学んだことを思い出したい」などと話していました。ウォーキング後は学生同



ウォーキングでは姿勢も意識

士交流を深めながらヘルシーランチをいただきました。本学の学生からは「信州大学の学生さんとウォーキングすることができてとても楽しかった」「今日できた縁をこれからも大切にしていきたい」と話していました。

皆さまのお近くで、学生や専門スタッフ(管理栄養士・健康運動指導士)がお手伝いできることがありましたら、是非お声をかけてください。

感動的だった「留学生による日本語スピーチコンテスト」

11月16日、「第29回留学生による日本語スピーチコンテスト」が松本東ロータリークラブ主催で開催されました。松本大学からは3名の交換留学生がスピーチを披露し、聴衆を魅了しました。見事3位入賞のトウ・ギョウセイさん(嶺南師範学院)のスピーチは「素直なことば〜外国語学習からうまれたもの」。素直になって周りの人に感謝や愛情の言葉を伝えると周りも素直になることを流暢な日本語でスピーチしました。審査員特別賞を受賞したのはソ・ユイジェさん(義守大学)。「台湾で日本が人気の理由ー日本人の精神性」と題して、台湾の人は、日本人の優しさ、助け合う精神、職人気質が好きだと語ってくれました。またチン・シュユさん(嶺南師範学院)も、一度は失望した日本に気持ちを開いていく様子を心を込めてスピーチしてくれました。そして、このコンテストでもう一つ感動的だったのは、応援団の多さです。松本大学の学生、教職員が大勢応援に駆け付けてくれ、スピーチを終えた留学生に温かい言葉をかけて

ん(義守大学)。「台湾で日本が人気の理由ー日本人の精神性」と題して、台湾の人は、日本人の優しさ、助け合う精神、職人気質が好きだと語ってくれました。またチン・シュユさん(嶺南師範学院)も、一度は失望した日本に気持ちを開いていく様子を心を込めてスピーチしてくれました。そして、このコンテストでもう一つ感動的だったのは、応援団の多さです。松本大学の学生、教職員が大勢応援に駆け付けてくれ、スピーチを終えた留学生に温かい言葉をかけて



歓談する姿がそこかしこで見られました。国を越えて個々が絆を深める様子を実感できた一日でした。(松商短期大学部 准教授 中村 純子)

色鮮やかに四季を表現「一日限りのレストラン」



今年の「一日限りのレストラン」には健康栄養学科生34名が参加し、9月30日に本学で開催しました。学生が決めた今年のテーマは「四季」。季節の食材に頼るのではなく、料理でその季節を表現することに挑戦し、春の花畑をイメージしたパステルカラー

のテリーヌ、夏の熱い太陽を浮かべた透明のトマトスープ、野菜チップスや紫の野菜を駆使して落ち葉が舞っている様子を表現した主菜、そして雪のクリスマスのデザートができあがりしました。また、客席にも、それぞれの季節をイメージした花のオブジェランプシェードなどの工夫を凝らしました。学年を超えて皆で試行錯誤しながら料理を作り上げた頑張りや、自分たちの納得がいくまで繰り返し行った接客の練習が、今年のレストランを成功に導くとともに、参加した学生たちを大きく成長させたと感じています。(健康栄養学科 専任講師 成瀬 祐子)

「第14回公開クリニック」中高生の成長の一助となるように

12月1日、吹奏楽のミニコンサート&公開クリニックを、吹奏楽界の第一線で活躍する演奏家7名の協力を得て開催しました。地域貢献の一環として始めたこのイベントも14回目。ミニコンサートでは、プロならではの見事に調和が取れた演奏を披露していただきました。



あいにく高校の諸行事と重なってしまいましたが、7校から84名が参加し、多くの団体が近く開催されるコンテストに向けて、講師・生徒ともに熱のこもったクリニックが行われました。参加した生徒からは「指導を受けた後、自分たちの音が明らかに違うものになった」「来年も絶対に開催してください」等、充実した様子が伺える多くの声が寄せられました。この公開クリニックが、コンテストでの成果や今後の活動の一助となることを願っています。(教務課長 赤羽 研太)

「フラ・イズ・アロハ」の開催 収益金を東日本大震災災害支援プロジェクト活動の支援金に

第8回「フラ・イズ・アロハ」ハワイアンフェスティバルを9月17日に開催しました。きっかけは、松本大学東日本大震災災害支援プロジェクト活動の支援金捻出のためでしたが、開催によって地域住民にハワイ文化の紹介・国際交流・国際文化理解の実践をすると同時に、観光を学ばせ、生に対してイベントプロデュースの手法を指導することも出来ました。

6年間に8回、6000名を集客できた要因としては最高のゲストを招聘できたことです。グラミー賞ノミネート歌手、フラ世界一を決める大会で優勝したフラチーム、世界一の



ハワイアンミュージシャンなど、フラ愛好家にとって知らない人はいない著名なハワイアンが企画趣旨に賛同して来日公演してくれました。会場を提供した松本大学、イベントを支えていただいたフラを愛する皆様から感謝いたします。お陰さまで総額201万円を寄付することが出来ました。(観光ホスピタリティ学科 教授 山根 宏文)

松商短期大学部前期成績優秀者の表彰

松商短期大学部は、9月27日に平成30年度前期成績優秀者の表彰式を行いました。これまで、松商短期大学部では半期ごとの成績優秀者の表彰を行ってきましたが、平成30年度入学生より1年ごとの表彰に制度が変更されました。そのため、今学期は2年生のみの表彰式となりました。前期に一定以上の科目を履修した成績上位10名が選ばれ、住吉学長に表彰されました。学生たちは、いずれも素点平均90点以上という高得点を収めており、履修した科目

の4分の1がS評価という学生もいました。学長は表彰にあたり、今後も学業に加え学生生活の様々な場面で他の学生たちの模範となることを期待すると述べました。卒業までの半年は卒業論文に取り組む時期となりますが、こちらの成果も期待したいと思います。(松商短期大学部教務主任 矢野口 聡)



公務員・教員採用試験結果速報 (2018年12月7日現在)

採用活動が短期間化した民間企業と異なり長期間にわたる、公務員試験や教員採用試験もようやく終盤を迎えています。今後も続報や臨時採用などで合格者がさらに増えていくことが予想されます。

〈公務員採用試験合格状況〉

・長野県職員(管理栄養士)1名・塩尻市役所(上級)2名・諏訪市役所(上級)1名・伊那市役所(初級)1名・朝日村役場(初級)1名・長野県警察4名・警視庁1名・自衛隊2名 計13名

〈教員採用試験合格状況〉

・長野県小学校教諭1名・山梨県小学校教諭1名・静岡県小学校教諭2名・新潟県中学校教諭(保健体育)1名・長野県高等学校教諭(保健体育)1名・長野県養護教諭1名・長野県栄養教諭1名 計9名

10月13日、14日の2日間、第52回目となる「梓乃森祭」が開催されました。テーマは「Fall into Memories」。天候に恵まれ、多くの来場者を迎えることができ、成功裏に終えたことをうれしく思います。今年のイベントでは「平成仮面ライダーショー」が企画され、例年よりも子どもの数が多く、親子連れで賑わいを見せました。

今年は、9号館建設中のため、模擬店の数が制限され、ウッドデッキの野外ステージも使えないという条件の下での開催でした。全学学生委員会では、大学祭の意味を問い直し、アカデミックな方向に舵を切り替えたかどうかという意見が出され、各学科に持ち帰って議論してもらうことになりました。急に大きく変えることは難しいと思いますが、方向性を示して少しずつ改善していければと考えています。シンポジウムや地域貢献大賞選考会など、もっとたくさんの学生に参加してほしいですし、ゼミ展示や発表を見て回りましたが、もっと宣伝をするなどのサポートが必要であると感じました。

大学祭を企画運営するに当たり、学祭局メン

バーを中心に話し合いや交渉を重ねてきたことでしょう。これらの過程が、まさにアクティブ・ラーニングであり、意味のある生きた経験としてこれからの人生の糧になると思います。大学祭の企画運営に携わった学生の皆さん、お疲れさまでした。

また、こうして大学祭を通して学生が逞しく成長していけるのは、松本大学ならびに松本大学松商短期大学部の教育を応援し、支えて



くださる地域住民の方々の温かいお力添えがあったからこそと感謝しております。ありがとうございました。



第9回(平成30年度)学長賞授賞式

学術・芸術・社会・体育・文化活動において他の模範となる成績をおさめ、または社会に貢献した学生、団体を表彰する「学長賞」の授賞式が、第52回梓乃森祭前夜祭の中で行われました。

受賞者 小林 航 (人間健康学部4年: 課外活動)

- ・第87回日本学生陸上競技対校選手権大会 男400mH出場
- ・2018日本学生陸上競技個人選手権大会 男400mH出場
- ・第92回北信越学生陸上競技対校選手権大会 男400mH優勝

部活動情報 Club・Circle

男子サッカー部

来シーズンの“3冠”を目指して

今シーズンの男子サッカー部は、長野県選手権で準優勝(決勝戦はJ3のAC長野パルセイロに0対2で惜敗)、総理大臣杯北信越予選で準優勝(第2代表として総理大臣杯全日本大学サッ

カーナメントに初出場)、北信越大学リーグ1部で4位(全

11チーム中)、セカンドチーム・FC、マツセロナの長野県リーグ優勝(来シーズンの北信越社会人リーグ昇格)等、“まずまず”の結果を残しました。

来シーズンは、①長野県選手権優勝、②総



理大臣杯北信越予選優勝、③北信越大学リーグ優勝の“3冠”を目標に掲げました。引き続きご声援をお願いいたします。

(男子サッカー部部長兼監督 齊藤 茂)

女子ソフトボール部

第2回アジア大学ソフトボール選手権大会 選抜チームで本学学生が参戦

第2回アジア大学ソフトボール選手権大会が10月23日～26日、中国南京市南京工科大学ソフトボール場において開催され、本学からは甲田のどか(スポーツ健康学科2年)が日本学生選抜チームの一員として参加しました。この大会は文字通り、アジア各国の大学代表チームが参戦し大学アジアNo.1を決める大

会であり、日本、中国をはじめとしたアジアの8つの国と地域が参加し熱戦を繰り広げました。

日本は順調にプレイオフに出場しましたが、熱戦が続いた末、3位という悔しい結果となりました。しかし個人的には甲田は全5試合全てに出場し、うち4試合がスターティングメンバーでJAPANのレギュラー格の一人として、15打数4安打、打率0.250、守備率1.00(無失策)という成績を残すことができました。

甲田にとって初めてのJAPAN選出、初めての海外遠征、初めての他大学の選手とのチー



ムづくりと初めてづくしでしたが、大会前の合宿などを含めた10日間余の体験は、ソフトボールのみならず、人生においても貴重な経験となったと思います。この経験を生かし、今後の大いなる飛躍に期待したいと思います。

(女子ソフトボール部部長 岩間 英明)

硬式野球部

秋季リーグ戦結果は第2位 来春の一部昇格を期す!

関甲新学生野球連盟2部秋季リーグ戦が終了し、9勝2敗(勝ち点4)第2位となりました。3位で終了した春季リーグ戦に比べ、課題であった勝負所での一打や守備時の粘り強さについ

ては各試合の中で大きな成長が見えたシーズンでした。優勝したチームとはペーススピードや体力面で劣る部分があったと感じました。これから冬期間に入り更なる体力作りが始まります。地力の部分の底上げをし、来春のシーズンでは優勝し一部昇格できるように練習に取り組んでいきます。沢山の応援、誠にありがとうございました。(硬式野球部 監督 清野 友二)

平成30年度 関甲新学生野球連盟 秋季リーグ戦

順位	大学名	平国大	松本大	常盤大	新潟大	埼玉大	茨城大	勝	負	勝点
1	平国大	●3-4 ●7-2 ●8-2	○12-0 ○5-1	●1-3 ○10-0 ○13-0	○23-2 ○9-0	○7-1 ○12-1	10	2	4	
2	松本大	○4-3 ●2-7 ●2-8	○1-0 ○3-1	○7-3 ○7-2	○14-0 ○10-3	○14-2 ○11-1	9	2	4	
3	常盤大	●0-12 ●1-5	○0-1 ○1-3	○4-2 ○7-0	○9-2 ○15-8	○5-1 ○9-2	6	4	3	
4	新潟大	○3-1 ○0-10 ○0-13	●3-7 ●6-7	●2-4 ●0-7	○12-2 ○8-4	○8-7 ○7-0	5	6	2	
5	埼玉大	●2-23 ●0-9	○0-14 ○3-10	●2-9 ●8-15	●2-12 ●4-8	○8-3 ○12-8	2	8	1	
6	茨城大	●1-7 ●1-12	○2-14 ○1-11	●1-5 ●2-9	●7-8 ●0-7	●3-8 ●8-12	0	10	0	

2019年度 入試日程

■ 総合経営学部（総合経営学科/定員90名、観光ホスピタリティ学科/定員80名）

試験区分	募集人員		会場	出願期間	試験日	合格発表日	手続締切日
	総合経営	観光ホスピタリティ					
一般	一般A	20	松本大学・東京・名古屋・新潟・甲府・那覇	1月 7日(月) ~ 1月 25日(金)	2月 2日(土) 2月 3日(日)	2月 12日(火)	2月 20日(水)
	一般B	3	松本大学				
	一般C	2	松本大学				
センター	センター利用Ⅰ期	8	松本大学	1月 7日(月) ~ 2月 1日(金)	2月 22日(金) 3月 13日(水)	2月 12日(火)	2月 20日(水)
	センター利用Ⅱ期	2	松本大学				
	センター利用Ⅲ期	2	松本大学				
その他	留学生後期	若干	松本大学	2月 4日(月) ~ 2月 15日(金)	2月 22日(金)	2月 26日(火)	3月 7日(木)

■ 人間健康学部（健康栄養学科/定員70名、スポーツ健康学科/定員100名）

試験区分	募集人員		会場	出願期間	試験日	合格発表日	手続締切日
	健康栄養	スポーツ健康					
一般	一般A	18	松本大学・東京・名古屋・新潟・甲府・那覇	1月 7日(月) ~ 1月 25日(金)	2月 2日(土) 2月 3日(日)	2月 12日(火)	2月 20日(水)
	一般B	3	松本大学				
	一般C	2	松本大学				
センター	センター利用Ⅰ期	10	松本大学	1月 7日(月) ~ 2月 1日(金)	2月 22日(金) 3月 13日(水)	2月 12日(火)	2月 20日(水)
	センター利用Ⅱ期	3	松本大学				
	センター利用Ⅲ期	2	松本大学				
その他	留学生後期	若干	松本大学	2月 4日(月) ~ 2月 15日(金)	2月 22日(金)	2月 26日(火)	3月 7日(木)

■ 教育学部（学校教育学科/定員80名）

試験区分	募集人員		会場	出願期間	試験日	合格発表日	手続締切日
	学校教育	その他					
一般	スカラシップ	7	松本大学・東京・名古屋・新潟・甲府・那覇	1月 7日(月) ~ 1月 25日(金)	2月 2日(土)	2月 12日(火)	2月 20日(水)
	一般A	20	松本大学				
	一般B	2	松本大学				
センター	スカラシップ	3	松本大学	1月 7日(月) ~ 2月 1日(金)	2月 22日(金) 3月 13日(水)	2月 12日(火)	2月 20日(水)
	センター利用Ⅰ期	10	松本大学				
	センター利用Ⅱ期	2	松本大学				
その他	留学生後期	若干	松本大学	2月 4日(月) ~ 2月 15日(金)	2月 22日(金)	2月 26日(火)	3月 7日(木)

■ 松商短期大学部（商学科・経営情報学科/各学科 定員100名）

試験区分	募集人員		会場	出願期間	試験日	合格発表日	手続締切日
	商	経営情報					
一般	一般A	6	松本大学・東京・名古屋・新潟・甲府・那覇	1月 7日(月) ~ 1月 25日(金)	2月 2日(土)	2月 12日(火)	2月 27日(水)
	一般B	2	松本大学				
	一般C	2	松本大学				
センター	センター利用Ⅰ期	6	松本大学	1月 7日(月) ~ 2月 1日(金)	2月 22日(金) 3月 13日(水)	2月 12日(火)	2月 27日(水)
	センター利用Ⅱ期	2	松本大学				
	センター利用Ⅲ期	2	松本大学				
その他	留学生後期	若干	松本大学	2月 4日(月) ~ 2月 15日(金)	2月 22日(金)	2月 26日(火)	3月 7日(木)

■ 松本大学大学院健康科学研究科健康科学専攻（一般・社会人共通）

試験区分	募集人員	会場	出願期間	試験日	合格発表日	手続締切日
大学院 後期	3	松本大学	1月 7日(月) ~ 1月 25日(金)	2月 3日(日)	2月 12日(火)	2月 20日(水)

■ 受験前の疑問を解決 入試相談会

[日時] 2019年1月24日(木)、25日(金) 10:00~15:00

詳しくはホームページでご確認いただくか、入試広報室までお問い合わせください。

www.matsumoto-u.ac.jp ☎0120-507-200

Information

9号館 竣工目前に

2019年3月の完成を予定している松本大学9号館は、現在順調に工事が進んでいます。

1階は学生が自由に使えるコモンスペース、2階は既存のフォレストホールと連結した学生レストラン、3階は研究室と多目的室を配置し、学生のみなさんの食事、休憩、学修、研究発表といった多目的に利用できる施設です。



松大生協から保護者の皆さまへ

「健康食券」10%プレミアム付 受付中

学生のための「健康食券10%プレミアム付」(生協の購買で金券としても使用可)の多数のご利用をありがとうございます。好評につき、引き続き購入を受付中です。購入の際には、後期学費のご案内に同封させていただきました「松大生協用振込用紙」をご使用ください。お手元に用紙がない方は下記へお問い合わせをお願いいたします。

【問合わせ先】

松本大学 生活協同組合 TEL0263-48-7280

健康食券をお渡しした後、学生と生協から「健康だより」としてご家族のもとに葉書をお届けします

■ 学生の声

- いつもありがとうございます。この食券でおいしいごはんを食べて元気になって、午後の講義も頑張ります。
- 健康食券を使って、健康な食事を心がけています。いつもありがとうございます。



松商学園創立120周年記念 教育拡充募金のお願い

松商学園の今後の更なる発展のための記念事業を推進するために、皆様方の温かいご理解を賜り、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。

募金の方法については
こちらから



編集後記

年の瀬も押し迫り、いよいよ平成最後の年末年始を迎えようとしています。松本大学は「地域貢献」を旗印に平成14年に開学しました。以来、総合経営学部総合経営学科に加えて観光ホスピタリティ学科、人間健康学部、大学院健康科学研究科、教育学部を設置し、「まちづくり」「健康づくり」「人づくり」を目指して拡張して参りました。伝統ある松商短期大学部とともに、新しい時代が始まって、さらに地域の皆様に大切にされる、地域になくてはならない大学をめざして進んでいきたいと教職員一同思っております。今後とも松本大学の活動にご理解とご協力をお願いします。(記・入試広報委員長 山田 一哉)



〒390-1295 長野県松本市新村2095-1
TEL 0263-48-7200 FAX 0263-48-7290
www.matsumoto-u.ac.jp